

「家がいいね」 第189号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2020.2.3

さびしいとき



私がさびしいときに、
よその人は知らないの。
私がさびしいときに、
お母さんはやさしいの。
お友だちは笑うの。
私がさびしいときに、
私がかさびしいときに、
仏さまはさびしいの。

「そのこゝろ」 金子みすゞ (1903-1990)

26歳で娘を残し、この世を去った詩人の心は何と細やかなのでしよう。子どもの心の寂しさが宇宙に満ちる時、世間の人は思いもかけません。友だちは気付いて笑うだけです。お母さんだけは、やさしさで包もうとしてくれます。仏(ほとけ)さまは一緒に、寂しさの中にいてくれるのです。私にもようやく、「この詩の意味が分かる思いです。星の王子さまは、友だちになりたいたいキツネから「本当に必要なものは目に見えない」と言われ、ハッと気付きます。高慢と思いきや星に残してきた花が愛おしく夜空を見上げます。満天の中でも見分けられる存在なのです。物欲や権力欲の星々も多々あるのですが。



ほとけさまの人生

「サピエンス全史(文明の構造と人類の幸福)」を読み続けています。宗教史にも触れています。仏教の開祖ゴータマは王子でした。王を予定されていても不安を抱えて、悲しみや苦悩から逃げ、より喜びを追い求める定めを知り、妻子を捨てて出家しました。心の不安定が、渴愛にあることを知り、現実があるがままに受け容れる悟りに達したのです。後半の人生は、自分が居なくても修行が続くための、仕組み作りでした。高齢の衰えを自身に受け容れ、死に涅槃で一生を終えています。

マスクで大騒ぎするんじゃねーよ！

マスクは正しく付けましょうと愛猫再登場です。コロナウイルス感染の恐慌が全世界規模になり、詳細な情報が無いまま不安をいたずらに煽っています。新型インフルエンザが、過去あつという間に全世界に広がったのは2009年でした。しかも最新のインフルエンザワクチンは、その流行時の型を基に作られています。2012年には、トリインフルエンザ流行も懸念して特別措置法まで作りしました。当時も当初は「水際対策」と出入国を厳しく取り扱いましたが、覚えておられますでしょうか。パニックになりやすい人は、ワクチンを追い求め興奮のあまり「無いと皆が言う。隠して私に死ね」とか「騒がれたことを思い出しました。」



小説「ペスト」が教えること

ノーベル文学賞作家の、カミュの1947年の作品です。あらずじは、アルジェリアの都市で、ネズミの大量死に始まる伝染病ペストの流行があり、対応の遅れもあって、その都市境界を閉鎖する事態になります。外部と遮断された孤立状態の中で、必死に「悪とされるもの」と闘う市民の姿が記されてゆきます。どのような事も起きるという「不条理」が描かれる一方、対ナチスの闘争経験が比喩的に組み込まれています。困難の中でこそ、試される人間性があるというテーマでした。武漢市の実態は分かりませんが、自分たちの街で起きる事したら、自ら立ち上がる人はきつと居るはずだと思います。人間は信ずるに値します。

休診日のお知らせ

土曜の臨時休診をご了承下さい。
2月29日、3月7日、



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tep-ip.or.jp
<http://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可